

アイデンティティの社会学	秋	週2回	4単位
担当者：横山 寿世理			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 自己アイデンティティ（＝自我・自分とは何か）を理解するのに役立つ事例をドキュメンタリー番組や新聞記事、エッセイなどを確認しながら、どのような解説が可能かを考える。この解説として、社会学で扱われる種々の自我論を講義で紹介して、事例の考察を深めていく。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は政治経済学科社会学系の専門科目であり、政治経済学科の学生がこの科目を履修するには、専門基礎科目の「社会学」を修得しておかなければならない（他学科の学生も、社会学を修得しておくことが望ましい）。 3. 学びの意義と目標 この講義では、人びとがどんな自分になることを要求されてきたのか、その要求がどのように変化したのかを、さまざまなアイデンティティ論を通じて模索する。その上で、自分という人間の形成（変容）やアイデンティティの構造がどのように説明されてきたのかを社会的自我論を通して、現代社会や社会的事実を理解することを目標とする。			
<b>評価方法</b> 中間試験30%、期末レポート40%、出席30%で評価する。			
<b>教科書</b> 船津衛『自分とは何か』恒星社厚生閣			

アメリカ史	春	週2回	4単位
担当者：柴田 史子			
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容 様々なマイノリティ（少数者）集団の視点から歴史を考える多文化主義の歴史教育が唱えられるようになり、そうした考え方に沿った教科書も多数出版されるようになった。この授業では、アメリカ合衆国で主流にあり、今日の合衆国を形作ってきたWASP（White Anglo-Saxon Protestant）の視点から捉えたアメリカ史を縦軸に、マイノリティの体験を横軸として捉えながら学んでいく。 ◆カリキュラム上の位置づけ 1～2年生での受講が望ましい。この科目は、「アメリカ文化」「英米文学」「アメリカ思想」といった科目にとっての基礎科目としての役割を担っているためである。 ◆学びの意義と目標 アメリカ合衆国は、世界にとっても、またわが国にとっても重要な国であり、国家、社会、国民の特質を理解する上でも、その歴史の全体像を知ることが肝要である。			
<b>評価方法</b> 中間テスト（30%）と期末テスト（70%）			
<b>教科書</b> 有賀 貞『ヒストリカル・ガイド アメリカ』山川出版社			

アメリカ思想	春	週2回	4単位
担当者：柴田 史子			
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容 アメリカ社会形成の土台となった思想、アメリカ文化を支えている思想、アメリカをアメリカたらしめている「生きた思想」をとりあげ、それぞれの思想のエッセンスとなる資料に当たりながら学んでいく。また、それらの思想を表現する北米の小さな博物館を紹介していく。 ◆カリキュラム上の位置づけ アメリカ関係の科目の中では専門性の高い科目である。2年次以降に履修することが望ましい。 ◆学びの目標 Social Activismという側面からアメリカの思想を捉えようとしている。現代アメリカの社会運動を理解するために知っておくべき、普通のアメリカ人の精神性を扱う科目である。			
<b>評価方法</b> 出席点（20%）、レポート（40%）、期末試験（40%）で評価する			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

アメリカ文化	春	週2回	4単位
担当者：増田 直子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では現代アメリカ社会を理解するために、第二次世界大戦から21世紀初頭に至るまでのアメリカ社会の流れを概観し、人種・民族をめぐる政治的・社会的・文化的問題を学ぶ。多民族・多民族国家であるがゆえにアメリカ合衆国はどのような問題に直面し、それに対しどう対処し、一つの国家にまとめようとしているのかを明らかにする。 2. カリキュラム上の位置づけ 現代アメリカ社会と文化を理解するための基礎となるべきものである。 3. 学びの意義と目標 アメリカ現代史の流れを知り、基礎的な知識を身につける。多様な人種・民族がアメリカ社会のあり方に影響を及ぼしていることを理解し、その意義を説明できるようにする。			
<b>評価方法</b> ビデオ・レポート20%×2 期末試験 50% 出席その他 10%			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

アメリカ文化演習 A	秋集中	4単位
担当者：D. パーガー		
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 カリキュラムは、授業と課外活動を選択して参加しアメリカ文化を学ぶよう編成されている。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でその国の文化、歴史を学び、異文化対応力をつけることを目的とする。		
<b>評価方法</b> 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50%  (研修終了後春学期の単位として認定)		
<b>教科書</b> 授業の中で指示する		

アメリカ文化演習 B	春集中	4単位
担当者：D. パーガー		
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 カリキュラムは、授業と課外活動を選択して参加しアメリカ文化を学ぶよう編成されている。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でその国の文化、歴史を学び、異文化対応力をつけることを目的とする。		
<b>評価方法</b> 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50%  (研修終了後秋学期の単位として認定)		
<b>教科書</b> 授業の中で指示する		

アメリカ文化概論	秋	週2回	4単位
担当者：柴田 史子			
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容 アメリカの政治、経済、宗教、文化、社会問題などの多岐にわたる分野をカバーする。映像や写真等でアメリカ文化に触れると同時に、文化地図の作成などの作業も行なう。 ◆カリキュラム上の位置づけ アメリカに関する学びを統合する科目として設置された科目であるため、2年次～3年次にかけて受講することが望ましい。 ◆学びの意義と目標 アメリカ社会、アメリカ文化を空間軸で捉えることを目指しており、大学院レベルのアメリカ研究にとっての入門としての意味を持つ科目である。			
<b>評価方法</b> 授業中の提出物（30%）と期末テスト（70%）で評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

医学概論	秋	週1回	2単位
担当者：齋 今			
<b>講義の目標及び概要</b> ・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 ・リハビリテーションの概要について理解する。 ・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。			
<b>評価方法</b> 1. 教員による講義のみではなく、ディスカッションや学生によるプレゼンテーションを取組んだワークショップも実施する。 2. 通常講義出席、WS出席&レポート60% 3. 期末レポート40%			
<b>教科書</b> 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 第2版』中央法規出版			

異常心理学		春	週2回	4単位
担当者：古澤 聖子				
<b>講義の目標及び概要</b> <p>〈内容〉 一定程度の「自己理解」ができることにより、初めて「他者理解」に踏み出せる。ゆえに、あらためて「自己理解」から開始する。加えて、臨床という営為の提示とともに現代社会における問題の論考に付き学びを深める。他方、限られた時間ながら、実践やケース検討をとおして、本講テーマを見極める姿勢を培えるよう配慮する。学問に留まらず、日常生活の上で「役に立つこと」「実りとなること」が得られるよう工夫を凝らす。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 対象としての領域は、「臨床心理学」に軸足を置くが、「精神医学」および「臨床心理学と精神医学の学際領域」にもおよぶ。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 本学科目は、「異常心理学」との科目名であるが、正常と異常のパラダイムに対しシンプルに境界を決定づけることは困難を伴う。よって、正常・異常と呼ばれる双方向からの視座のもとに講義を進め、何をもって「正常ではない」とするか否かを顕現させていく過程を学ぶこと、「常とは異なる」事態、状態の確認を自らが行うことが本講の意義である。</p>				
<b>評価方法</b> <p>出席を重視する。  「出席」30%、「reaction paper」10%、「book report」（必須）30%、「学年末report」（必須）30%により評価する。</p>				
<b>教科書</b> <p>福島 章『犯罪心理学入門』中公新書</p>				

イスラム文化A		春	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明				
<b>講義の目標及び概要</b> <p>1. 内容 まず、イスラーム教に関する基礎を、キリスト教・ユダヤ教と比較しつつ明らかにする。また、イスラーム教徒の生活の規範となっている「イスラーム法」についても具体的な事例を紹介する。次に、古代ギリシア・インド・中国・エジプトなどの諸文化の要素を摂取・融合して形成・発展したイスラーム文化の諸相を取り上げ、イスラーム文化が近代以前のヨーロッパ文化に与えた影響の世界史的意義について論じたい。なお、本講義では、「忘れられたキリスト教」とも呼ばれる東方キリスト教諸派についても概観する機会を設けたい。なぜなら、例えばネストリウス派キリスト教徒がイスラーム文化の成立に重要な役割を果たしたことから明らかのように、東方キリスト教諸派はイスラームと密接な関係を持っているからである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 概説であり、入門的な位置づけである。イスラーム教に関する基礎知識を身につけ、他宗教・異文化に対する関心を養う基礎的な講義である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 世界史上におけるイスラーム文化の重要性についての認識を深めることができるようになること。イスラーム教に関する最低限の基礎を説明できるようになること。</p>				
<b>評価方法</b> <p>出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。</p>				
<b>教科書</b> <p>プリントを配布する</p>				

イスラム文化B		秋	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明				
<b>講義の目標及び概要</b> <p>1. 内容 「ヨーロッパにおけるイスラーム文化」を主題として、異文化接触に関する諸問題について考察する。まず、イスラーム教についての基礎知識を確認した上で、歴史的に見たキリスト教文化とイスラーム文化との接触によって生じた相互関係について、中世の地中海地域、旧ソ連、バルカン半島の三地域に焦点をあてて個別に論じる。次に、現代の西欧におけるイスラーム諸問題を概観する。そして、最後に、近現代ヨーロッパにおける対イスラーム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる。なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取りあげる予定であるので、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義である。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標 ヨーロッパ文化に与えたイスラーム文化の重要性と、キリスト教文化とは異なるヨーロッパの地域文化の存在について理解を深め、他宗教・異文化に関する国際的な視野を持つ。</p>				
<b>評価方法</b> <p>出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。</p>				
<b>教科書</b> <p>プリントを配布する</p>				

イタリア語 I（初級A）		春	秋	週2回	2単位
担当者：高津 美和					
<b>講義の目標及び概要</b> <p>(1) 内容  この授業では、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行います。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指します。</p> <p>(2) カリキュラム上の位置づけ  イタリア語をはじめて学ぶ学生（1～4年生）を対象とします。</p> <p>(3) 学びの意義と目標  日本に住んでいても、料理、美術、映画、サッカーなど、イタリアの様々な文化に触れる機会が多くあります。「イタリア語」を学ぶことで、魅力的なイタリアの文化をさらに身近に感じることができるようでしょう。</p>					
<b>評価方法</b> <p>出席、授業態度、提出物（50%）  中間試験、期末試験（50%）</p>					
<b>教科書</b> <p>一ノ瀬俊和『Nuovo A Zonzo con CD』朝日出版社</p>					

イタリア語Ⅱ（初級B）		秋	週2回	2単位
担当者：高津 美和				
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 「イタリア語Ⅰ」に引き続き、イタリア語の初級文法を学び、会話・作文・読解の練習を行います。CDやDVDなどの視聴覚教材を活用することによって、聴解力の強化も目指します。 (2) カリキュラム上の位置づけ 「イタリア語Ⅰ」を履修した学生を対象とします。 (3) 学びの意義と目標 「イタリア語Ⅱ」の履修によって、イタリア語の初級文法の習得が完了します。授業の後半には映画やアニメーションなども教材として取り上げる予定ですが、授業が進むにつれ、その内容をよく理解できるようになるでしょう。				
<b>評価方法</b> 出席、授業態度、提出物（50%） 中間試験、期末試験（50%）				
<b>教科書</b> 一ノ瀬俊和『Nuovo A Zonzo con CD』朝日出版社				

異文化間教育		秋	週1回	2単位
担当者：佐藤 千瀬				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 現在、日本の保育所・幼稚園・小学校において、外国人の子どもたちや国際結婚の子どもたち、海外で生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション等の理論と実践について概説する。さらに、外国人の子どもたち・家族とコミュニケーションをとる上で必要となる、世界の保育・教育に関する情報を収集し、発表する。 必要に応じて、英語や多言語による授業、映像を用いた授業、多文化共生保育を実践する保育所見学を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 4年次に「海外実習（SAINTS）」の履修を希望する者は、本講義を履修することが望ましい。また、保育士資格取得のための選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 ・世界の子どもたちと家族の現状を知り、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。 ・適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫をした発表を行う。				
<b>評価方法</b> 平常点 40% 発表 30% レポート 30%				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

異文化間コミュニケーション		秋	週2回	4単位
担当者：小松崎 利明				
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉文化的背景が異なる他者との接触においては、その文化に対する無知から、他者との間に誤解や偏見が生まれたり、衝突が起きたり、ときには国家間の摩擦さえ生み出すこともある。他方、われわれが日常行っているコミュニケーションのあり方が変わることによって、人々の一般的な行動様式や思考態度に影響がおよび、その社会の文化が変容することもある。この講義では、「文化」や「コミュニケーション」について多面的に学習し、現代社会において文化がわれわれのコミュニケーションをどのように規定しているのか、また逆に、われわれのコミュニケーションのあり方によってどのような文化が生み出されているのかということについて考えることを目的とする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉欧米文化学科の専門科目であり、選択科目として2年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、2年次からの選択科目となる。 〈学びの目標〉文化について学習し考えることにより、学生一人ひとりが様々な文化的背景をもつ人々との出会いにおいて、より深い他者理解および他者との交流ができるようになることを目指す。				
<b>評価方法</b> 1. 平常点（授業での発言とコメントシートの提出） 30% 2. 学習確認クイズ（授業内実施） 30% 3. 期末レポート 40%				
<b>教科書</b> 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房				

異文化理解		秋	週2回	4単位
担当者：稲田 敦子				
<b>講義の目標及び概要</b> 【1. 内容】 私たちにとってはあたりまえであり、とくに何の疑問もいかなかったことがらが、他の文化圏の人びとにおいては、非常な驚きであるということがある。 このクラスでは、比較文化の手法を用いながら、文化の枠組みと人間の行動・深層心理との関係性を具体的事例をとりあげながら比較検討していくこととする。 【2. カリキュラム上の位置づけ】 学科の基礎科目であり、選択科目として1年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、1年次からの必修科目である。 【3. 学びの意義と目標】 国際化がますます進んでいる現在、異文化と触れる機会が多くなってきている。異なる文化との相互理解は、お互いから深く学びあい、共存しようとする人間の生き方にとって大切なことである。本講義はこうした認識が得られることを目標とする。				
<b>評価方法</b> (1) 新聞記事による事例研究(25%) (2) 基礎知識チェック(25%) (3) テーマ別レポート(25%) (4) 授業への参加度(25%) ずつとし、総合計100点として算出する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

医療英語 A	春	週1回	2単位
担当者：森 容子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 今日のグローバル社会にあつては、海外で病気になったり、病院で外人患者の手助けが必要になったり、日常生活の中で英語が必要になる場合が増えつつある。本授業では、実生活で役に立つ医療英語に焦点をあて、楽しく授業を進めていくつもりである。 2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけであり、基礎レベルの医療英語を学ぶ。病院や医療に関心のある人、海外旅行をよくする人、医療機関でアルバイトや就職をしようと考えている人に向いている。 3. 学びの意義と目標 診療科名、体の名称等、医療に関する英語の語彙力をつけると同時に、病院などで必要とされる英会話を習得。学習した英会話は、医療の現場だけではなく、海外で病気になったとき、街角で外人から道を聞かれたときなど日常生活の中でも大いに役立つ。			
<b>評価方法</b> 出席を含める授業参加度 (25%)、ペアワーク (25%)、宿題 (25%)、小テスト (25%) で総合評価する。			
<b>教科書</b> 森 容子『Basic English for Medical Office Assistants』南雲堂			

医療英語 B	秋	週1回	2単位
担当者：森 容子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 医療英語 B では医療英語 A で学習しなかった病名・怪我・症状の語彙及び英語表現、診察時の英会話、個人情報の聞き方と答え方などを学習する。映画やドラマを通して、病院で実際に使われている会話を、映像を通して確認したり、ロールプレイなどで既習の医療英語の知識を確実なものにしていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 「医療英語 B」も「医療英語 A」同様、基礎レベルの英語を学ぶ。病院や医療に関心のある人、海外旅行をよくする人、医療機関でアルバイトや就職をしようと考えている人に向いている。 3. 学びの意義と目標 病名・怪我・症状などの医療に関する英語の語彙力をつけると共に、病院などで必要とされる英会話を学ぶ。学習した英会話は、医療の現場だけではなく、海外で病気になったとき、街角で外人から道を聞かれたときなど日常生活でも大いに役立つ。			
<b>評価方法</b> 出席を含める授業参加度 (25%)、ペアワーク (25%)、宿題 (25%)、小テスト (25%) で総合評価			
<b>教科書</b> 森 容子『Basic English for Medical Office Assistants』南雲堂			

イングリッシュ・バイブル A	春	週1回	2単位
担当者：E. D. オズバーン			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Content - This course is a survey of the first major section of the Bible, the Old Testament, in English. An introduction to the Bible in general and the Old Testament in particular will be made, with special attention to their historical significance. Key themes within the Old Testament will then be covered, with emphasis on practical application to the students' personal lives.  2. Role in the Curriculum - The course is an elective within the general curriculum at Seigakuin University and is open to 2nd-, 3rd-, and 4th-year students in all departments.  3. Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the Old Testament and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.			
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance and participation (20%), reading assignments (30%), reports (30%), and a final examination (20%).			
<b>教科書</b> 『NIV Thinline Bible』Zondervan Publishing Co. [ISBN 978-0-310-93564-3]			

イングリッシュ・バイブル B	秋	週1回	2単位
担当者：E. D. オズバーン			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Content - This course is a survey of the second major section of the Bible, the New Testament, in English. As a continuation of English Bible-A, the course further develops the theme of the centrality of Jesus Christ in human redemptive history and emphasizes the importance of His teachings for practical living.  2. Role in the Curriculum - The course is an elective within the general curriculum at Seigakuin University and is open to 2nd-, 3rd-, and 4th-year students in all departments.  3. Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the New Testament, particularly the Gospel message, and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.			
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance and participation (20%), reading assignments (30%), reports (30%), and a final examination (20%).			
<b>教科書</b> 『NIV Thinline Bible』Zondervan Publishing Co. [ISBN 978-0-310-93564-3]			

インターネット時代の情報資源活用 春 週1回 2単位
担当者：河島 茂生
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 図書館の業務に欠かせない情報技術の知識を修得するために、図書館の業務システム、サーチエンジンやデータベースの仕組み、電子資料(電子ジャーナル、電子書籍)などについて解説し、必要に応じて演習を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 司書課程資格科目群 コミュニティ政策学科専門科目群 〈学びの意義と目標〉 情報社会のなかであって、図書館と情報技術は切っても切り離せない関係になっている。情報技術の影響で、図書館業務は効率化し利便性も高まった。しかし、負の側面も抱えている。知っておかなければならない技術の解説だけでなく、現状のあり方を批判的に考察する思考をも養う。
<b>評価方法</b> 出席状況と授業態度および試験結果を総合して評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

インターンシップ(自主活動) 春集中 2単位
担当者：酒井 俊行/藤井 重隆
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでの実習科目である。この実習にできる者はインターンシップI(事前学習)を受講し、単位認定を受けた学生のみが履修できる。 実習期間は原則として夏休み期間中の10日間で、実習先は以下の4つから選ぶことができる。学生が希望する実習先を全員に紹介ことは困難なので自分が見つけた実習先で実習することも可能である。この場合、事後のことを考え、必ず大学に関わり先方と覚書等の交換を行う。 ○埼玉県インターンシップ ○上尾市・桶川市・伊奈町インターンシップ ○埼玉県経営者協会ハイパーキャンパス ○キャリアサポートセンター紹介 ○自分で見つけた実習先
<b>評価方法</b> 実習期間中には毎日実習ノートを書いて、指導者に提出しコメントを記載の上押印をもらう。実習終了後に提出したレポート(50%)、実習ノート(30%)及び口頭報告(20%)で評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

インターンシップ I (事前学習) 春 週1回 2単位
担当者：酒井 俊行
<b>講義の目標及び概要</b> 足りない部分を知ることが社会生活へよりよく適合するための第一歩です。就業力をアップするといっても、自分に不足しているものを明確に認識しなければ、獲得目標も定まりません。優秀な職業人は自らの足りないところをしっかりと把握して、それを埋めようと不断的努力をしているからこそ、その地位を維持できるのです。 この授業では、自らに不足するものをさまざまな角度からチェックすることを主テーマとします。チェックの結果不足するところが沢山あっても落ち込まないで下さい。それが多ければ多いほど、逆に今後の成長性が高いわけです。授業は右記の計画に沿って進めます。さらにこうした各回のテーマに加えて毎回ビジネスマナーと語感トレーニングをクイズ方式で学ぶこととします。コツコツと地道に繰り返すことによってしか、仕事の基本であるマナーや語感(適格な言葉づかい)を自分のものにすることはできません。 授業の進め方は私から一方的に話をするのは極力避けたいと考えています。仕事を成立させるためにはまず参加することが大事です。出しゃばりすぎではいけません、チームメンバーの積極的な参加がなければよい仕事はできません。そうしたこともこの授業を通じて学んでもらいたいと考えています。就活の勝者となって夢を実現しましょう。
<b>評価方法</b> 出席は皆勤が原則です。出席点50%、レポート・平常点50%の割合で評価します。
<b>教科書</b> 塚谷正彦『大学生の生き方・考え方』実教出版

インターンシップ I (事前学習) 春 秋 週1回 2単位
担当者：藤井 重隆
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 インターンシップとは、在学中に就業体験を行うこと。企業などの組織に自分を置き、その組織がかかげる理念や目標に向かって日々どのような活動をしているかを実感することを目的としている。この機会を通じて、自ら社会が求める人材像を理解し、より良いキャリア選択を目指す姿勢を知ることが望ましい。就職活動に役立つ「模擬企画プロジェクト」のグループワークや、ビジネスマナーを理解する講座も設けている。 2. カリキュラム上の位置づけ 夏休み・春休みなどに、民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでインターンシップとして働くことを希望する学生を対象とする。すなわち、インターンシップII(実習)受講のために必要な講義である。 3. 学びの意義と目標 経済のグローバル化やICTの発展による産業構造の変革に伴い、雇用の情勢や働き方も変化している。「就業力」を理解し、これを育成していくことの大切さを理解すること。
<b>評価方法</b> 配点は出席点50%、レポート点50%とする。 遅刻3回で1回欠席扱いとする。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>インターンシップⅡ(実習)</b>		春集中	2単位
担当者：藤井 重隆/酒井 俊行			
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は民間企業、自治体、特定非営利活動法人（NPO）などでの実習科目である。この実習にできる者はインターンシップⅠ（事前学習）を受講し、単位認定を受けた学生のみが履修できる。 実習期間は原則として夏休み期間中の10日間で、実習先は以下の4つから選ぶことができる。学生が希望する実習先を全員に紹介ことは困難なので自分が見つけた実習先で実習することも可能である。この場合、事後のことを考え、必ず大学が関わり先方と覚書等の交換を行う。 ○埼玉県インターンシップ ○上尾市・桶川市・伊奈町インターンシップ ○埼玉県経営者協会ハイパーキャンパス ○キャリアサポートセンター紹介 ○自分で見つけた実習先			
<b>評価方法</b> 実習期間中には毎日実習ノートを書いて、指導者に提出しコメントを記載の上押印をもらう。実習終了後に提出したレポート(50%)、実習ノート(30%)及び口頭報告(20%)で評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>映画を通して学ぶ文化と英語</b>		春	秋	週2回	2単位
担当者：中村 香代子					
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この授業では数本の映画を通して、アメリカ文化や社会の抱える問題について学びます。また映画のテーマに関するインターネットでの調べ学習やディスカッションを通して理解を深め、プレゼンテーションやレポートで自分の考えをまとめ、発信する練習をします。さらに映画シーンのリスニング練習やロール・プレイ、会話表現学習も行います。 2. カリキュラム上の位置づけ ECA(Cinema)に続き、さらに多様な映画を使用して、英語力育成と異文化理解を図る専門科目です。 3. 学びの意義と目標 映画を通して異文化に対する理解を深め、楽しみながら英語表現能力を向上させることを目標としています。					
<b>評価方法</b> 出席(10%)、授業参加(10%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)、ロールプレイテスト(20%)、表現テスト(20%)を総合的に評価します。					
<b>教科書</b> プリントを配布する					

<b>英語音声学</b>		春	週2回	4単位
担当者：加曾利 実				
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 英語音声学の基礎知識（発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等）を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行います。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語等の、他の種類の英語についても触れます。LL教室使用。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、なるべく、1-2年次生の間に履修することをお勧めします。 ◆学びの意義と目標◆ 言語は、通じなかったら、学習する意味はありません。英語音声学の基本理論を学び、実際にネイティブ・スピーカーに通じる発音の習得を目指します。つまり、相手を正しく理解し、また自らの意思を相手に正しく伝えられるようになります。				
<b>評価方法</b> 1. 定期試験（中間と期末）の成績（70%） 2. レポートの成績（15%） 3. 発音チェックテストの成績(15%) 欠席の扱いについては、学生要覧を参照のこと。				
<b>教科書</b> 御園和夫、平坂文男『コミュニケーション主体の英語音声学』和広出版				

<b>英語科教育法Ⅰ</b>		春	週1回	2単位
担当者：長崎 睦子				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義の内容及び目標は以下の5点である。(1)英語教育の意義と目的を考え確認する。(2)英語教育に対する目的意識を持つことで、これまでの「学生」という立場から「教師」という立場に立って考え行動することを目指す。(3)第二言語習得理論、外国語教授法、指導技術、学習指導要領への理解を深める。(4)指導に必要な英語力を身につける。(5)指導案を作成し、模擬授業を行うことを試みる。 2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程における2年生の必修科目である。 3. 学びの意義と目標 英語教育の目的・意義について一面的な見方ではなく、より広く深く考えることで、英語教育に対する誇りと熱意を持てるようになってもらいたい。また英語教育の理論を学び、指導に必要な英語力を身につけ、模擬授業を体験することで、中学・高等学校の教師になるとはどういうことなのかを認識し、教師になるための一歩を踏み出していった欲しい。				
<b>評価方法</b> 平常点（授業への貢献度など）(20%)、レポート数回（30%）、模擬授業(30%)、期末テスト（20%）＊評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。				
<b>教科書</b> 望月昭彦 編著『改訂版 新学習指導要領にもとづく 英語科教育法』大修館書店 『New Crown English Series 1』三省堂 『New Crown English Series 2』三省堂 『New Crown English Series 3』三省堂 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

英語科教育法Ⅱ		秋	週1回	2単位
担当者：長崎 睦子				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：「英語科教育法Ⅰ」に引き続き、(1)英語教育の意義と目的を考え確認する、(2)英語教育に対する目的意識を持つことで、これまでの「学生」という立場から「教師」という立場に立つて考え行動することを目指す、(3)第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領への理解を深める、(4)指導に必要な英語力を身につける、(5)指導案を作成し、模擬授業を行うことを試みる、を目標とする。さらに、中学・高等学校では「コミュニケーション能力の育成」を謳う学習指導要領に基づく授業の展開が求められている現状を踏まえ、様々な「言語の使用場面と働き」に対応できる実践的コミュニケーション能力の育成のために、4技能（読む/書く/話す/聞く）を有機的に関連付けながら指導することを目指す。 2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における2年生の必修科目である。 3. 学びの意義と目標：英語教育の目的・意義について広く深く考えることで、英語教育に対する誇りと熱意を持てるようになってもらいたい。また、英語教育の理論を学び、指導に必要な英語力を身につけ、模擬授業を体験することで、中学・高等学校の教師になるとはどういうことなのかを認識し、教師になるための一歩を踏み出してほしい。				
<b>評価方法</b> 平常点（授業への貢献度など）（20％）、レポート数回（30％）、模擬授業（30％）、期末テスト（20％）＊評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。				
<b>教科書</b> 望月昭彦 編著『改訂版 新学習指導要領にもとづく 英語科教育法』大修館書店 『New Crown English Series 1』三省堂 『New Crown English Series 2』三省堂 『New Crown English Series 3』三省堂 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

英語科教育法Ⅲ		春	週1回	2単位
担当者：西野 孝子				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 英語教育理論の一部を紹介し、教育現場での応用を考える。模擬授業では15分の言語活動を英語で行う。基本的には講義形式の授業だが、随時教え方を実演し、ディスカッションも重視する。中学生の指導に焦点をあてるため、Classroom Managementについても折に触れて言及する 2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程履修学生対象。 3. 学びの意義と目標 (1)「なぜ英語を学ぶのか（教えるのか）」について考える (2)基礎的な英語教育理論を学び、中学校の授業での応用のしかたを考える。 (3)優れた英語教育実践を学び、自分自身の理想の英語授業指導案を考える。				
<b>評価方法</b> 出席（50％）、模擬授業及び指導案（20％）、提出物・期末レポート（30％）によって算出する。				
<b>教科書</b> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

英語科教育法Ⅳ		秋	週1回	2単位
担当者：西野 孝子				
<b>講義の目標及び概要</b> すぐれた授業実践をビデオで紹介し、自分自身の授業での応用を考える。模擬授業では中学生対象の50分授業を行う。中学生の指導に焦点をあてるため、Classroom Managementについても折に触れて言及する 2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程履修学生対象。 3. 学びの意義と目標 (1)「なぜ英語を学ぶのか（教えるのか）」について考える (2)基礎的な英語教育理論を学び、中学校の授業での応用のしかたを考える。 (3)優れた英語教育実践を学び、自分自身の理想の英語授業指導案を考える。				
<b>評価方法</b> 出席（50％）、模擬授業及び指導案（20％）、提出物・期末レポート（30％）によって算出する。				
<b>教科書</b> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

英語学概論		春	週2回	4単位
担当者：加曾利 実				
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・意味論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、イギリスの著名な学者・朗読者による、古英語及び中英語の貴重な音声を聞き、また実際に発音してみる醍醐味と言えます。古（いにしえ）の英語音声に関心のある学生に履修して欲しい。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ ある程度、英語基礎力の付いた2-4年次生に履修することを勧めます。 ◆学びの意義と目標◆ 現代というグローバル化の時代にあって、英語に関する様々な知識が、必須となって来ています。英語を学習し、研究する者ならば、知らなければならない知識を網羅します。				
<b>評価方法</b> 1. 予習・復習の実行度（10％） 2. 授業での積極度（10％） 3. 中間・期末の定期試験（80％） 出席については、学生要覧を参照のこと。				
<b>教科書</b> 石黒 昭博『現代の英語学』金星堂				



英語圏児童文学講読	春	週1回	2単位
担当者：松本 祐子			
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、英語圏の優れた児童文学作品を取り上げ、訳読する。今回は、イギリスの作家マイケル・ボンズの『くまのパディントン』を読む。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉1年次の必修英語で身につけた英語力を維持し、さらにブラッシュアップしたい学生のための授業。文法、構文などを中心としたリーディング能力を伸ばす内容である。 (3) 〈学びの意義と目標〉日本の英語教育は、現在、コミュニケーション力が重視されているが、文法の知識なしに正しく英語を読み書きすることはできない。また、英文を日本語に置き換えることで、英語と日本語の構造の根本的な違いがわかり、文化や思考方法の違いも見えてくる。作品に描かれる文化的背景についても学びながら、英語で物語を読む達成感を味わってほしい。			
<b>評価方法</b> 授業時の平常点40%、期末試験50%、出席10%によって算出する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

英語講読 A	春	週1回	2単位
担当者：高橋 義文			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【英語文献講読】</b> 英語の文献の読解力を養うことを目的とする。英文を正確に読み、その内容を的確に把握することに努め、それぞれの分野の研究に役立つ英語力をつける。 教材として、主に以下の論文集に収録されている、ラインホルド・ニーバーのエッセイを取り上げ、それを訳しながら、文章構造、文法、特徴的な表現や語彙を確認し、その内容について議論する。受講生の状況によって、補助的に、文法の確認、速読の練習などのために、他の平易な英語文献を合わせ用いることもある。  Love and Justice: Selections from the Shorter Writings of Reinhold Niebuhr, ed. by D. B. Robertson, 1957. The Essential Reinhold Niebuhr: Selected Essays and Addresses, ed. by Robert McAfee Brown, 1986.			
<b>評価方法</b> 出席率、授業での担当部分の翻訳、提出された訳文により、総合的に評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

英語コミュニケーション	春	週1回	2単位
担当者：L. アーノルド			
<b>講義の目標及び概要</b> 英語を理解する外国人の子供を日本の幼稚園・保育所・小学校に迎える際に必要なコミュニケーション・スキルを養うことを目的とする。歓迎の挨拶、園内・構内設備の案内など実践に必要なコミュニケーション・アクティビティを行う。英語を理解する保護者のために、家庭配布プリントから必要な情報を英語で伝えるためのコミュニケーション・スキルを養う。日本の幼稚園・保育所・小学校の特徴と聖学院アトランタ国際学校(Saints)の異なる文化的背景を英語で学ぶ。			
<b>評価方法</b> 1. 出席 30% 2. 授業態度・参加 30% 3. テスト 40%			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する プリントを配布する			

衛生学入門	春	週2回	4単位
担当者：大江 敏江			
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 衛生学は疾病を予防し、健康の保持、増進を目標としている。平均寿命の大幅な伸長は医療の進歩よりも衛生環境の整備、栄養の改善、貧困からの脱却に負うところが大きい。 本講では、上下水道、感染症、室内環境、食中毒、国民栄養、生活習慣病など身の回りの問題を取り上げ、健康と環境の関係について学ぶ。 2 カリキュラム上の位置づけ 衛生学入門は公衆衛生学、環境衛生学とともに社会福祉士国家試験科目「医学一般」の一部でもある。将来保健医療関係者との連携をはかるうえで、基礎となるものである。 3 学びの意義と目標 衛生学が「保健」の領域全般に関与し、医療・福祉との関連が深いことを理解する。そして2年次以降の「公衆衛生学」および「環境衛生学」への発展の基礎とする。 (教科書は「衛生学入門」、「公衆衛生学」、「環境衛生学」共通である)。			
<b>評価方法</b> (1)出席・受講態度(含座席位置) 20%、 (2)授業中の小テスト20%、 (3)中間テスト30%、 (4)期末テスト30%、によって評価する。 受講態度が悪いと単位習得はできない。			
<b>教科書</b> 鈴木庄亮、久道 茂編集『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂			

映像と文化A	春	週1回	2単位
担当者：山中 剛史			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>◆内容◆</b> 写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。しかし、例えば明治の人々はどのように映像を理解し受容していたのか。視覚文化の歴史的様相を横目に据えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が、近代化の中で如何様な位置を占め表象されてきたのかを概観しながら、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解する。 <b>◆カリキュラム上の位置づけ◆</b> 応用系として3～4年生向。文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生に向いています。 <b>◆学びの意義と目標◆</b> 本講義では、写真や映画など19世紀より輸入・発展した各メディアが、種々の文化的コンテクストの中で如何に扱われてきたかを再検証していく。それは、ヴィジュアル文化全盛の今日、映像文化をその原初から改めて逆照射することによって、現代日本文化における映像作品の諸問題を改めて考えさせることになるだろう。			
<b>評価方法</b> 全講義回数の2/3以上の出席および期末レポートの提出を単位取得の最低限の条件とする。その上で、期末レポートに加え、不定期に実施する小レポートから評価する（提出状況＋内容）。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

映像と文化B	秋	週1回	2単位
担当者：山中 剛史			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>◆内容◆</b> 写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。視覚文化の歴史的様相を横目に据えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が如何様に表象されてきたのかを概観しながら、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解していくために、その変遷する映像芸術の歴史的様相を芸術思潮のうちに主題化し、葛藤を繰り返しながら映像的結実へといたった過程を、個々の作品を実見することで跡付け検証する。 <b>◆カリキュラム上の位置づけ◆</b> 応用系として3～4年生向。文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生に向いています。 <b>◆学びの意義と目標◆</b> 本講義では、写真や映画などの各メディアが、第二次大戦後の文化的コンテクストの中で如何に扱われてきたかを具体的に再検証していく。ヴィジュアル文化全盛の今日、改めて映像作品の孕む諸問題と可能性について見つめ直し、思考する眼を養っていききたい。			
<b>評価方法</b> 全講義回数の2/3以上の出席および期末レポートの提出を単位取得の最低限の条件とする。その上で、期末レポートに加え、不定期に実施する小レポートから評価する（提出状況＋内容）。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

映像文化	秋	週2回	4単位
担当者：氏家 理恵			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>〈内容〉</b> 本講義は、映画作品を社会的・文化的な視点から分析していく授業である。「映像の世紀」と呼ばれた20世紀が過ぎ去った現在、映画もその技術的・理論的發展によって、単なる娯楽として片づけられない地位を映像文化のなかで占めるに至った。総合芸術である映画の「読み方」を知るとともに、映画が培ってきた映像文化の特徴と、その社会的・政治的・経済的功罪を振り返り、さらに映画の限界と可能性を考察していくことが本講義の目的である。 <b>〈カリキュラム上の位置づけ〉</b> 欧米文化学科の2年次生以上対象専門科目である。映画・映像そのものだけでなく、欧米の歴史や社会・文化などの知識を持って映像作品を分析することを前提とする。 <b>〈学びの目標〉</b> 本講義によって映像の持つ「力」を知り、ちまたに満ちあふれている映像を客観的に分析する力を養う。また、映画が理論を併せ持った研究分野として確立していることを踏まえ、受講後も映画鑑賞の際に役立つような、映画を「読む」ための知識を獲得する。			
<b>評価方法</b> 1. 平常点（ミニッツノート・課題など） 40% 2. 映画批評レポート（2回） 30% 3. 中間レポート・期末レポート 30% なお、レポートはオンライン提出とする。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

英米児童文学	春	週2回	4単位
担当者：松本 祐子			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>〈1〉〈内容〉</b> この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。 <b>〈2〉〈カリキュラム上の位置づけ〉</b> 児童学科の学生は1年次から、それ以外の学科の学生は2年次から履修できる科目。英米児童文学についての基本的知識を身につけるための授業で、初心者～中級者向け。 <b>〈3〉〈学びの意義と目標〉</b> 長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。			
<b>評価方法</b> 授業への出席・平常点20%、レポート40%、期末試験40%で評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

## 英米文学

春 週2回 4単位

担当者：氏家 理恵

## 講義の目標及び概要

〈内容〉

イギリスで近代小説が誕生した18世紀初頭から3世紀経った現在、私たちはさまざまな作品を読むことができる。本講義では、なるべく多くの形式・種類の作品を取り上げ、小説の発達とその歴史的・文化的背景を探っていく。また、文学や作品そのものがイギリスやアメリカの風土・歴史・社会・生活と深く結びついていくことも確認したい。なお、講義の補助として写真や映像も使用する予定である。

〈カリキュラム上の位置づけ〉

2年生以上対象の専門科目である。ある程度の文学の基礎知識を持っている学生、「英米文学概論」あるいは「欧米文学」を受講済みの学生の履修を推奨する。

〈学びの意義と目標〉

小説の誕生からその発展を歴史的にたどることによって、小説の多様性を知り、作品に対する多角的なアプローチを身につけられる構成になっている。「文学」と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまう人、物語を「読む」とはどういうことかよく分からないと感じている人に、英米の小説の面白さや作品を読む楽しさを知ってもらいたい。

## 評価方法

1. 平常点（ミニッツノート・確認テスト） 40%
2. 課題 10%
3. 作品批評レポート（2作品） 30%
4. 期末レポート 20%

## 教科書

プリントを配布する

## 英米文学概論

秋 週2回 4単位

担当者：富田 光明

## 講義の目標及び概要

1. 内容

英米文学概論とは、英米文学全体にわたって大要を述べたものであり、非常に広範囲に及ぶものである。常に文学とは何であるのかを意識して学ぶことが大切である。本講義の英米文学概論は、受講者諸君が今後英米文学作品に触れる折に、必要とされる知識及び英米人の価値観・人生観などを学び、文学をより身近かなものにするためである。

2. カリキュラム上の位置づけ

欧米文化を学ぶ学生にとって、文化の一つである文学を知ることとは必須である。その意味でも本講義を履修することを推奨します。英米文学のジャンルは、詩・小説・ドラマ エッセイといった多岐にわたる。

3. 学びの意義と目標

この講義は概論ではあるが、文学史的な性質を含むのである。で、時代的・文化的背景を理解し、常に文学とは何かというテーマを意識し、授業に参加してもらいたい。基本的にはテキストを使用するが、主要作品については必要ときにはプリントなどで補充をし、より深い理解を学生が得るように指導する。

## 評価方法

授業参加意欲（発表など）が40%、レポートが40%、出席が20%によって算出する。

## 教科書

須藤信雄・繁尾久『教養としての英米文学』南雲堂

## 絵本文化

春 週2回 4単位

担当者：上原 里佳

## 講義の目標及び概要

1. 内容

絵本とは、「絵」と「文字」の絶妙なバランスによって成立する極めて特殊な文化であるため、その切り口も多様である。また、そこには物語だけでなく、自然科学、人間の在り方の基盤となる哲学などが、極力単純化された形で展開される。ここでは、絵本の歴史と発展を学びながら、できるだけ多くの絵本に触れその魅力と特徴について考えたい。

2. カリキュラムの位置づけ

教養科目群C群のうちの児童学科提供科目。児童学を専門としない学生が、幅広く深い教養を学ぶ観点から絵本文化を通して子どもの世界を知るための入門的な講義である。

3. 学びの意義と目標

子ども時代に親しんできた絵本、現代の子どもたち（そして大人たち）が楽しんでいる絵本、世界の絵本を通して、子ども文化の一端を担う「絵本文化」の奥深さについて学ぶ。

## 評価方法

出席:25%  
小レポート:25%  
期末試験（もしくは、レポート）:50%

## 教科書

授業の中で指示する

## 絵本文化論

春 週1回 2単位

担当者：上原 里佳

## 講義の目標及び概要

1. 内容

子どもが出会う物語世界の入口にある絵本との出会いは、大人との共同作業によって用意されることから、大人をもう一度、人間の原点である〈子ども〉世界へと誘う働きもしている。子どもの絵本体験とは何かを探りつつ、優れた絵本から子どもの世界の文法、さらに大人にとっての意味もとらえていきたい。

2. カリキュラム上の位置づけ

児童学科専門科目群「児童文化系統」の選択科目。幼稚園教諭免許状資格科目（選択）、保育士資格科目（選択）としても指定されている。絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。

3. 学びの意義と目標

子どもが「描かれた世界」をどう受けとめ、どのように心を養っていくのか、そこに「絵本」という媒体や大人はどう関わるのか、保育・教育現場で用いることも考慮しつつ絵本が作り出す〈場〉の意味と可能性を学んでほしい。

## 評価方法

出席30%（教職資格科目のため重視します）  
講義後もしくは講義内での小レポート30%  
期末テスト40%

## 教科書

授業の中で指示する

演奏形式とその音楽	春	秋	週2回	4単位
担当者：藤田 明				
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 この講義では、楽器の特徴と時代背景、主な作曲家やその作品等について学び、音楽鑑賞を行う。 2) カリキュラム上の位置づけ クラシック音楽の入門的な位置づけであり、音楽鑑賞論の基礎となる。 3) 学びの意義と目標 この講義を受講することによって、学生諸君が音楽を鑑賞する時、より深く感動することが出来るようになるだろう。				
<b>評価方法</b> 試験40% ノート提出30% 出席30%				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

欧米家族文化	春	週2回	4単位
担当者：森 涼子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 昨年の大震災では、多くの人々が家族を失いました。家族の絆がいかに大切なものか、考えた人はきっと多いと思います。ところで「家族」って何でしょう。「家族の絆」って何でしょう。答えはひとつではありません。できるだけ多くの答えを探し出しましょう。それがこの授業の目的です。さまざまな家族にまつわるトピックスを選び、いろいろな側面から欧米の家族文化を日本の家族文化と比較しつつ、考えます。前半は欧米家族の歴史について、後半は欧米家族の諸問題をとりあげます。各自が興味のあるテーマを選び、ミニ発表（10分～15分）をおこない、それに続いてそのテーマに関する授業をします。その後、その問題に関する意見交換をおこないます。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化概観で、入門的な位置づけである。しかし基礎となるべきものである。 3. 学びの意義と目標 欧米家族に関する歴史と現状の諸問題を理解すること。さらに、それらの諸問題に対して自分の意見をもてるようになること。			
<b>評価方法</b> 前半の中間テストテスト（40%）、ミニ発表の内容（40%）、平常点（20% 出欠、授業や討論への参加度）で、評価します。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

欧米児童文化	秋	週2回	4単位
担当者：上原 里佳			
<b>講義の目標及び概要</b> 【比較児童文化という視点から】—文化から産業までの歩み— (1)内容 サブカルチャーとしての児童文化の特質をふまえた上で〈漫画・アニメーション・キャラクター〉に注目し、日本と欧米で個々の素材が、どのように係わりあいながら発展してきたかを、比較・考察する。作品が制作された当時の社会状況や文化的背景を検証し、そこに反映された子ども観や女性観の変遷を読み解いていく。作品観賞や最新のデータ・状況などできるだけ多くの具体例に触れ、なぜその作品（商品）がヒットしたかについて分析すると共に、ビジネス的側面からも具体的に検討していきたい。 (2)カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の〈生活文化〉領域としての専門科目。選択科目。 (3)学びの意義と目標 子ども時代から馴染んできた作品の再評価に加え、近年の作品で展開される世界観の可能性についても考えていきながら、柔軟な発想力と物事を多角的視野から展望する力を身につける。			
<b>評価方法</b> 出席点（授業への出席、および授業態度） 35% 各授業後提出の小レポート（講義内容の理解度・興味）、講義への積極的な関わりなど 35% 期末レポートもしくは試験 30%			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

欧米文化学特論	秋集中	2単位
担当者：高橋 義文		
<b>講義の目標及び概要</b> 【アメリカ・ヨーロッパ・日本・キリスト教文化学への誘い】 アメリカ、ヨーロッパそして日本の文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視野のなかで、大局的に理解するための研究入門となることを目指す。7人の担当者がそれぞれアメリカ、ヨーロッパ、日本の文化の研究のために基本的に重要なテーマを取り上げて講義する。本研究科に関わる教員が2回ずつの講義を通じて、それぞれの学風、つまり研究の視点や問題意識、研究方法を伝える機会とすることもこの科目の狙いである（講義担当：新井明、鶴沼裕子、大木英夫、大木雅夫、片柳榮一、田中浩、古屋安雄。コーディネーター：高橋義文）。		
<b>評価方法</b> 出席率とレポートにより総合的に評価する。		
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 田中浩『思想学の現在と未来』未来社 大木英夫『ピューリタン—近代化の構造』聖学院大学出版会		

欧米文化基礎知識(留学生用)	春	週1回	1単位
担当者：作田 奈苗			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この授業は、欧米文化学科必修の「欧米文化入門」の授業の予習・復習として学科オリジナル教科書『欧米文化の基礎知識』を使い、日本語の用語、基本的知識などを学ぶ。特に漢字、カタカナでの表記、未習の文型のせいでわからなくなならないように確認していく。 2. カリキュラム上の位置づけ この「欧米文化基礎知識(留学生用)」という科目は、欧米文化学科2年の留学生を対象とした科目であり、本学科必修の「欧米文化入門」の講義を日本人学生と共に受講するための準備の科目として設置されている。(なお、必修の「欧米文化入門」は1年生の「基礎ゼミA」「基礎ゼミB」で学んだことを受けて発展させる科目である。) 3. 学びの意義と目標 ・母語での欧米文化についての知識を日本語と結び付けて考えられるようにする。 ・「欧米文化入門」の講義を日本人の学生と共に受け、理解するための基礎知識を得る。 ・2年生以降履修する本学科の講義を理解するための基礎知識を得る。			
<b>評価方法</b> 1. 学期末テスト・小テスト 30% 2. 出席率 30% 3. 授業参加度 15% 4. 課題提出 25%			
<b>教科書</b> 聖学院大学欧米文化学科『欧米文化の基礎知識』			

欧米文学	春	秋	週2回	4単位
担当者：三宅 美千代				
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は、英米文学の初心者を対象とした基礎的な授業です。英米文学の基本的な予備知識、作品を生んだ歴史や時代背景についての初歩的な知識を身につけます。さまざまな英語圏作家の作品を少しずつ読みながら、英米文学を概観していきます。 英語で書かれた文学を入門的、かつ網羅的に扱うための切り口として、各学期異なるテーマに沿って、主要な作家や作品を紹介していきます。今年度は、前期は「移動と文学」、後期は「政治と文学」というテーマを考えています。映像や音声資料も活用しながら、さまざまな作家の移動や異文化観、社会・政治問題に対する文学的アプローチについて考察します。				
<b>評価方法</b> 期末試験40%、提出物(小レポート&ワークシート)35%、出席25%				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

欧米文学	春	秋	週2回	4単位
担当者：本田 貴久				
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 日本の近代文学に、欧米文学のもたらした成果は大きい。その中でもフランス文学の果たした役割は無視できない。一口にフランス文学と言っても、歴史的にも制度的にも多様な背景の中で様々な文学作品が作られてきている。本講義では、フランス文学史を通して、フランス文学の内容(の多様性)を学んでいきたい。映画などの視聴覚教材を借りながら、歴史の大枠を捉えることを目指したい。授業の最初には前回の授業のおさらいを簡単に行うことにする。毎回、授業の内容はプリントにして配布する。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門基礎科目で必修科目。同時に教養科目にも分類され、他の5学科の学生も選択必修科目として履修可能。 3) 学びの目標 単にフランス文学の歴史を概観するだけでなく、異国の文化や文学を学ぶとはどういうことなのかを考え、同時に、文学以外の関連分野への関心も広げること。				
<b>評価方法</b> 出席、平常点(各授業の小アンケートに対して与えられる得点+授業態度)、学期末レポートから総合的に評価する。各点数の配分は、出席点+平常80%、学期末レポート20%である。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

欧米文化入門	春	週1回	2単位
担当者：和田 光司			
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 講義の目標および概要 本講義では、本格的に欧米文化学科専門科目を履修していくために必要とされる、欧米文化に関連する基礎知識の習得を目指します。また、将来社会で活躍するために、2年次において準備可能なことについて、各種説明やトライアルをおこないます。 2) カリキュラム上の位置づけ 1年次に履修した「基礎ゼミ」の延長上にあり、欧米文化学科2年次必修科目であり、専門科目・専門ゼミへ進むための準備となる基礎科目です。 3) 学びの意義と目標 目標は三つあります。第一に、教科書を用いた学習により、専門科目を受講するのに十分な、欧米文化全般に関する基礎知識を習得すること。第二に、各種資格のガイダンス・トライアルを通じて、自らのライフデザインを現時点において考えられるようになること。第三に、1年次の基礎ゼミで学んだ「学びの基礎力」を復習し、その力をさらに伸ばすこと。			
<b>評価方法</b> 計7回的小テスト50%、期末テスト20%、平常点(出席状況や授業内での課題など)30%によって評価します。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

オーストラリア文化演習	春集中	4単位
担当者：D. バーガー		
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 Deakin University (認定校) ビクトリア州メルボルンを中心に5つのキャンパスを擁する ディーキン大学の附置機関Deakin University English Language Instituteの協力によって英語を集中して学ぶカリキュラムを編 成している。  2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化 交流を体験する英語特別トレーニング研修。		
<b>評価方法</b> 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50%  (研修終了後春学期の単位として認定)		
<b>教科書</b> 授業の中で指示する		

教えるための英文法 A	春	週1回	1単位
担当者：西野 孝子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 中学・高校で習った文法の復習。文法の指導法の実習。  2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程及びインターンシップ履修学生対象。  3. 学びの意義と目標 (1) 基礎的な文法を理解し、その運用能力を伸ばす。 (2) 中学・高校の英語の授業での文法の導入法を身につける。			
<b>評価方法</b> 出席 (50%)、提出物 (10%)、小テスト (20%)、模擬授業と指導 案 (20%) によって算出する。			
<b>教科書</b> 斉藤美加『みるみるわかる高校英語』三友社			

教えるための英文法 B	秋	週1回	1単位
担当者：西野 孝子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 中学・高校で習った文法の復習。文法の指導法の実習。  2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程及びインターンシップ履修学生対象。  3. 学びの意義と目標 (1) 基礎的な文法を理解し、その運用能力を伸ばす。 (2) 中学・高校の英語の授業での文法の導入法を身につける。			
<b>評価方法</b> 出席 (50%)、提出物 (10%)、小テスト (20%)、模擬授業と指導案 (20%) によって算出する。			
<b>教科書</b> 斉藤美加『みるみるわかる高校英語』三友社			

教えるための現代文 A	春	週1回	2単位
担当者：前田 潤			
<b>講義の目標及び概要</b> ◆教員採用試験の「現代文」読解問題を念頭に置きながら、現代 日本語で記されたあらゆるジャンルの文章読解力の向上を目標と して講義を行う。領域横断的な文章素材を扱うことを通じて、文 学・芸術はもちろん、社会思想・メディア・情報・身体・紛争・ 共同体といった重要な現代的問題系に関する思考を深めるととも に、「国語」教育に携ろうとする者として必要な、総合的な日本語 操作能力の獲得を目指す。中学校・高等学校教科書、各種副読本、 大学入学試験問題など、幅広い素材を対象テキストとする。 ◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法I」を 取得したものか、並行履修しているものが受講できる。 ◆教員採用試験の要求する「現代文」文章読解能力の水準を把握 するとともに、「国語」教員として最低限必要な文章表現力の獲得 を目標とする。			
<b>評価方法</b> 平常点 (出席と毎時間の小テスト) 50% + 最終試験50%			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

## 教えるための現代文B

秋 週1回 2単位

担当者：前田 潤

## 講義の目標及び概要

◆受講者が、やがて教員として教壇に立つことを想定しながら、教材分析能力・問題作成能力・文章解説能力・授業構成能力など、教員として是非とも必要な能力の育成を目標として講義を行う。対象テキストの充分な理解を前提とした上で、それをいかに「教材」として用い、「授業」を作っていくのかということを実践的に学んでいく講座となる。多数者の前で「授業」する能力の育成が目標となるため、教材研究過程の公開、模擬授業の実践など、多様な学びのプロセスを通じて、自己の思考の論理性や表現能力を客観化し、日本語操作能力の向上の足場をしっかりと築いてもらいたい。

◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法Ⅱ」を取得したものか、並行履修しているものが受講できる。

◆現代日本語で書かれた文章素材の味読と分析を通じて、小学校から高等学校の教場に至るまで、徹底した教材研究と授業準備が教員と学生（生徒）の有意義な対話を作り出してゆくものであることを学んでほしい。

## 評価方法

平常点（出席と模擬授業の内容）50％＋最終試験50％

## 教科書

プリントを配布する

## 教えるための古典Ⅰ

春 週1回 2単位

担当者：濱田 寛/有馬 義貴

## 講義の目標及び概要

【内容】  
この科目で学ぶ「古典」とは日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、それぞれ8時間目に「中間試験」を実施する。

前半の古文では、用言を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『竹取物語』を読む。

中国古典では、基本的な漢文の語法を学習し、その演習として「散文」作品の読解を行う。文学史に関連して、より専門的な事項についても丁寧な解説を行う予定である。

【カリキュラム上の位置づけ】  
教職課程履修者のための科目である。2年生以上の「教科教育法Ⅰ」をすでに履修したものか、並行履修を行っている者が履修できる。

【学びの意義と目標】  
将来、生徒たちに教えるためには、古典の豊かな世界を楽しむことができるようになってこそ魅力的な授業が可能になろう。

## 評価方法

Ⅰ 日本古典文学の読解力:50％  
Ⅱ 漢文学の読解力:50％  
＊どちらの授業も以下の2点を勘案する  
平常点(出席状況・小テストなど):25％  
中間試験:25％

## 教科書

村松明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法 改訂版』明治書院

## 教えるための古典Ⅱ

秋 週1回 2単位

担当者：濱田 寛/有馬 義貴

## 講義の目標及び概要

【内容】  
前半の「漢文」では、「韻文」を中心に扱う。具体的には『詩経』から唐詩までの中国の韻文の史的展開と具体的な作品に即した鑑賞を行う。後半の「古文」では、助動詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『徒然草』を読む。

【カリキュラム上の位置づけ】  
教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅰ」をすでに履修した者が受講できる。

【学びの目標と意義】  
人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。文法もまた同じことが言えよう。

## 評価方法

Ⅰ 日本古典文学の読解力:50％  
Ⅱ 漢文学の読解力:50％  
どちらの授業も  
平常点（出席と毎時間的小テスト）（25％）と  
中間試験（25％）を総合して評価

## 教科書

プリントを配布する  
松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法』明治書院

## 教えるための古典Ⅲ

春 週1回 2単位

担当者：濱田 寛/有馬 義貴

## 講義の目標及び概要

【内容】  
前半の「漢文」は、「史書」を中心に扱う。具体的には『春秋』三伝の比較対照を行いつつ「春秋の義」について学び、また高等学校の教材として定番ともいえる『史記』について、知見を深めたい。後半の「古文」は、助詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『伊勢物語』を読む。

【カリキュラム上の位置づけ】  
教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅱ」をすでに履修した者が受講できる。

【学びの目標と意義】  
人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。

## 評価方法

Ⅰ 日本古典文学の読解力:50％  
Ⅱ 漢文学の読解力:50％  
どちらの授業も  
平常点（出席と毎時間的小テスト）（25％）と  
中間試験（25％）を総合して評価

## 教科書

プリントを配布する  
村松明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法』明治書院

教えるための古典Ⅳ	秋	週1回	2単位
担当者：濱田 寛/有馬 義貴			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【内容】</b> この科目で学ぶ「古典」とは、日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、読解力を養う。日本の古典では、和歌の修辞法や敬語法について学習し、演習として『古今和歌集』・『新古今和歌集』・『枕草子』を読む。後半の漢文では、中国文学史を軸に、様々な作品を鑑賞する。また、日本漢文学についても理解を深めることになる。 <b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> 教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅲ」をすでに履修した者が受講できる。 <b>【学びの目標と意義】</b> 人に教えるためには、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になる。			
<b>評価方法</b> I 日本古典文学の読解力:50% II 漢文学の読解力:50% どちらの授業も 平常点（出席と毎時間的小テスト）（25%）と 中間試験（25%）を総合して評価する			
<b>教科書</b> プリントを配布する 松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法 改訂版』明治書院			

オペレーションズ・マネジメント	秋	週2回	4単位
担当者：柴田 武男			
<b>講義の目標及び概要</b> 生産現場における生産性改善の手法を、理論面と実践面から講義する。理論においては、業種による手法の相違を学び、実践面は産業グローバル化の中で顕在化する国内外における手法の相違、さらには国境を超えた手法の移転の実践を学ぶ。その目的に適用される科学的手法については、数学的な講義は省き、理論の概念的な説明にとどめる。 講義は、4名の実業界出身の講師による、オムニバス方式を採用。第1回から7回までは、情報産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。第8回から15回までは、化学産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。第16回から23回までは、食品産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。24回から30回までは、電子・機械産業に勤務した講師が、グローバルオペレーションに伴う技術移転を主題とする生産管理について講義する。			
<b>評価方法</b> 4名の講師それぞれの最後講義において、レポート課題が提示される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

おもちゃ論	秋	週1回	2単位
担当者：是澤 優子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 おもちゃは、子どもの遊びと深くかかわっている。おもちゃを基軸に自身の成長過程を振り返りながら、子どもの世界とおもちゃの関係を探る。さらに、伝統的玩具から現代まで、おもちゃの流れを概観しながら時代や社会を映すおもちゃの特質を読み解いていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 子どもに関する基本的な考え方を学んだ上で、その応用・展開として受講してほしい。 3. 学びの意義と目標 講義と合わせて討論・報告を行いながら授業を進める。子どもとおもちゃについて考えることに加え、「人間の生活に、なぜおもちゃが必要なのか」について、受講生が自分の考えを明確に表現できることを目標とする。			
<b>評価方法</b> リアクションペーパー（40%）および期末テスト（60%）			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

音楽・合奏指導G	春	週1回	1単位
担当者：山田 裕治/東海 千浪/村山 良介			
<b>講義の目標及び概要</b> 近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。 もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。 よりレヴェルアップしたアンサンブルとオーケストラを中心に進めながら、基本的な指揮法も学ぶ。			
<b>評価方法</b> 普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			



音楽・合奏指導H	秋	週1回	1単位
担当者：山田 裕治/東海 干浪/村山 良介			
<b>講義の目標及び概要</b> 近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。 もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。 各パート、セクションに気を配りながらオーケストラ全体をまとめられるように、実際に指揮をすることも含めて学ぶ。			
<b>評価方法</b> 普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

音楽・器楽E	春	週1回	2単位
担当者：塚原 晴美/笠井 かほる/島崎 美知子/渋谷 みどり/矢持 真希子/池上 真理子/阪 まどか			
<b>講義の目標及び概要</b> 保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げていくことになる。			
<b>評価方法</b> 普段の授業に臨む姿勢と出席、期末試験により行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

音楽・器楽F	秋	週1回	2単位
担当者：塚原 晴美/笠井 かほる/島崎 美知子/渋谷 みどり/矢持 真希子/池上 真理子/阪 まどか			
<b>講義の目標及び概要</b> 保育の現場や教育の現場においてピアノを活用するための基礎的な技術と表現法を学ぶ。それぞれの進度と力量についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組むことになるが、課題については幅を広げていくことになる。			
<b>評価方法</b> 普段の授業に臨む姿勢と出席、期末試験により行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

音楽・声楽	秋	週1回	1単位
担当者：藤田 明			
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 この授業は小学校や幼稚園、保育所についての知識を学びながらこどもの歌を取り上げて詩の内容を深く理解しながら歌えるように、歌唱表現の基本を学ぶ。 2) カリキュラム上の位置 声を使った表現（歌唱、朗読、発声についての知識など）全般について研究する。 3) 学びの意義と目標 こどもに歌を歌ってあげたり、こどもと一緒に歌うことは、音楽教育の中で最も大切な要素である。こどもに良い影響を及ぼすような歌唱技術とセンスを学んでほしい。			
<b>評価方法</b> 試験40％ 発表40％ 出席20％			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

音楽・ハンドベルC	春	週1回	1単位
担当者：本田 晃			
<b>講義の目標及び概要</b> 近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。 この授業の目的の一つである。  また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。 その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。  ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、深く学ぶ。			
<b>評価方法</b> 出席35%と授業態度35%、学期末テスト30%をもって行う。 実技を伴うので、欠席しないこと。 積極的に授業に参加すること。 学期に一度、全校礼拝での讃美を予定。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

音楽・ハンドベルD	秋	週1回	1単位
担当者：本田 晃			
<b>講義の目標及び概要</b> 近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。 この授業の目的の一つである。  また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。  ハンドベルの演奏技術の基礎基本をふまえ、より一層深く学ぶ。			
<b>評価方法</b> 出席35%と授業態度35%、学期末テスト30%をもって行う。 実技を伴うので、欠席しないこと。 積極的に授業に参加すること。 学期に一度、全校礼拝での讃美を予定。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

音楽A	春	秋	週1回	1単位
担当者：山田 裕治				
<b>講義の目標及び概要</b> 〈目標〉 小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得するために必要な基礎的な技能を、ピアノ演奏の基礎を中心に学びながら習得する。 〈内容〉 楽譜を読むのに必要となる基本的な知識を学ぶため、少人数に分けて講義とピアノを並行して行なう。教材は小学校で扱う楽曲を含め、受講者の音楽性の陶冶に適したものを取り上げる。尚、クラス分け等の詳細は、授業時に指示する。				
<b>評価方法</b> 普段の授業に臨む姿勢と小テスト、期末テストを総合して行う。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

音楽B	春	秋	週1回	1単位
担当者：藤田 明/星野 直子				
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 この授業は、小学校や幼稚園、保育所で行われる音楽活動に対応出来るように、音楽の基礎知識と表現力を身に付けるため、ソルフェージュや鑑賞、歌唱を行う。  2、カリキュラムの位置づけ 音楽表現入門的な位置づけであり、音楽表現のための最も大切な基礎能力を養うものである。  3、学びの意義と目標 小学校や幼稚園、保育所で扱われる音楽をこどもの状況や発達に応じて役立てる為に、音楽表現のための最も大切な基礎能力(読譜力)を養う。				
<b>評価方法</b> 試験60% 授業に於ける積極性20% 出席20%				
<b>教科書</b> 『全訳コールユーブンゲン』全音楽譜出版社				

音楽科教育法	春集中	2単位
担当者：村山 順吉		
<b>講義の目標及び概要</b> (目標) 小学校音楽家の歴史、目標、内容、指導法および評価について概説する。さらに、授業実践についての基本的な考え方、捉え方などを学び、これからの授業実践について考察する。また、音楽教育の方向性を探求し、実践能力を養う。 (内容) 講義をもとに、音楽教育の意義を理解し、授業づくりを行う。		
<b>評価方法</b> 出席状況、平常点、その他総合的に評価する。		
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 文部科学省『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』音楽之友社		

音楽を通して学ぶ文化と英語	春	週2回	2単位
担当者：K. O. アンダスン			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容:10のエピソードから成る“The History of Rock and Roll”のDVDを教材とする。各エピソードで紹介される音楽を聴き、英語の歌詞の意味や表現、さらに歴史的背景や文化を学ぶ。DVDの内容に関する宿題を課し、またエピソードごとに小テストも行う。 2. カリキュラム上の位置づけ:アメリカ及び英国の音楽の歴史を通し文化と英語を学ぶ。 3. 学びの意義と目標:英語の歌詞の意味を多方面から分析し、理解力を養う。			
<b>評価方法</b> 10% 出席 30% 小テスト結果 30% 宿題（レポート）提出結果 30% 期末試験結果			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

音楽を通して学ぶ文化と英語	秋	週2回	2単位
担当者：M. サベット			
<b>講義の目標及び概要</b> The goal of this course is to introduce American culture through music. Students will learn about various kinds of music in the U.S., their history, popularity, and trend among the young in recent years.			
<b>評価方法</b> 1. Attendance and participation 30% 2. Homework and term paper 40% 3. Final exam 30%			
<b>教科書</b> Sandra Heyer 『More True Stories Behind the Songs』 Pearson Longman			